（別紙様式１）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 申請年月日　　　　年　　月　　日

動物実験計画書

横浜国立大学長　殿

国立大学法人横浜国立大学動物実験等の管理実施規則第５条第1項に基づき、下記のとおり申請します。

　　　　　所属　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　職名　　　　　　　　　　　　　　　　氏名

□新規　　□変更・更新 受付年月日　　　年　　月　　日　　受付番号

※変更・更新の場合　前回の計画書の承認番号 ( )

　 ※１﷒ 「研究課題」 「研究目的概要」 「研究内容概要」 はホームページで公開されることを前提に記載すること。

※２ 「具体的な研究目的」 「具体的な研究計画と方法」 については、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成１３年

法律第１４０号）」による不開示を希望する場合には、「□不開示」 欄にチェックを入れた上、「その他必要または参考事項」欄に不開示と

する理由を記載すること。（ただし、開示請求があった場合、内容等によって必ずしも不開示になるとは限らないので注意）

|  |  |
| --- | --- |
| 研 究 課 題 |  |
| 研 究 目 的 概 要 |  |
| 研 究　内 容 概 要 |  |
| 動物実験責任者 | 所　　属 | 職　　　名 | 氏　　　　　名（フリガナ） | 教育訓練受講の有無 |
|  |  |  | □有　　□無 |
| 連絡先 | ＴＥＬ （　　　） | Ｅ－ｍａｉl |  |
| 動物実験実施者（人数が多い場合は別紙を添付） | 所　　属 | 職　　　名 | 氏　　　　　名（フリガナ） | 教育訓練受講の有無 |
|  |  |  | □有　　□無 |
| 連絡先 | ＴＥＬ （　　　） | Ｅ－ｍａｉl |  |
| 所　　属 | 職　　　名 | 氏　　　　　名（フリガナ） | 教育訓練受講の有無 |
|  |  |  | □有　　□無 |
| 連絡先 | ＴＥＬ （　　　） | Ｅ－ｍａｉl |  |
| 所　　属 | 職　　　名 | 氏　　　　　名（フリガナ） | 教育訓練受講の有無 |
|  |  |  | □有　　□無 |
| 連絡先 | ＴＥＬ （　　　） | Ｅ－ｍａｉl |  |
| 所　　属 | 職　　　名 | 氏　　　　　名（フリガナ） | 教育訓練受講の有無 |
|  |  |  | □有　　□無 |
| 連絡先 | ＴＥＬ （　　　） | Ｅ－ｍａｉl |  |
| 実験実施予定日・期間 | （開始予定日）　　　　年　　月　　日　～　（終了予定日）　　年　　月　　日迄　（　年　ヶ月間）※実際の実験実施開始日は承認を得た日以降となります。 |
| 飼養保管施設 及び実験室 | 飼養保管施設 | （承認番号　　　　　　　　　　　　　）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　施設管理責任者確認　　　印 |
| 実験室 | （承認番号　　　　　　　　　　　　　） |
| 施設等の概要 |  |
| 実 験 動　物 | 動 物 種 | 系　統 | 性　別 | 匹　数 | 微生物学的品質 | 入手先（導入機関名） | 備　考 |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
| 具 体 的 な研 究 目 的　□不開示 |  |
| 具 体 的 な研 究 計 画 と 方 法□不開示 | 研究概要 （研究計画と方法について、その概要を記入する。） |
| 実験方法 （動物に加える処置、使用動物数の根拠、飼育ケージの大きさとケージ事の飼育数、個体標識の方法を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。） |
| 特殊実験区分(該当項目をすべて■) | □□□ | 1. 遺伝子組換え動物使用実験　　区分: □ P1A □ P2A □ P3A2. 放射性同位元素・放射線使用実験3. 化学発癌・重金属実験 |
| 動物実験の種類(選択項目を■) | □□□ | 1. 試験・研究2. 教育・訓練3. その他（　　　　　　　　　） | 動物実験を必要とする理由(選択項目を■） | □□ | 1. 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった2. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 想定される苦痛のカテゴリー(選択項目を■) | □□□□ | A. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験B. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験C. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験D. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い　またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験 |
| 動物の苦痛軽減、排除の方法(該当項目をすべて■） | □□□□□ | 1. 短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない2. 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない3. 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する(具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　 　　　　　　　　　　　 　　　　）4. 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する5. その他 （具体的に記入: 　　　　　 　　　　　　） |
| 安楽死の方法(該当項目をすべて■) | □□□□ | 1. 麻酔薬等の使用 (具体的薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　　　　　 　　　　　　　　　　 ）2. 炭酸ガス3. 中枢破壊 (具体的に記入:　　　　　　　　　　　　　　　　　　法)4. 安楽死させない (その理由を記入: ) |
| 動物死体の処理方法(選択項目を■) | □□□ | 1. 大学内で焼却2. 外部業者に依託3. その他 （具体的に記入: 　） |
| その他必要または参　考　事　項 | （過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会への申請状況、「不開示」 とした理由などを記入する。) |
|  |